

ざくろ

池松 孝子

鬼子母神が手に持つ吉祥果はざくろとされる。夜叉神の娘で「訶梨帝母」と呼ばれ、10人とも500人と言われる子供を産んだ。これだけの子供を育てるために人間の子供を捕まえて食べるようになり、凶暴な性格で皆から恐れられていた。これを知ったお釈迦様は「訶梨帝母」の子を隠し、諫めた。嘘かまことか、人肉の味がするというざくろの実を与え、子供を食べないように約束させた。改心して鬼から神になったという。

「恐れ入谷の鬼子母神」で知られる真源寺の鬼子母神堂の神額や提灯の鬼の字には一画目の角がない異体字が使われている。鬼子母神は子育て、安産の守り神、さらには盗難除けの守護ともされている。

初夏に鮮やかな紅い花を咲かせるざくろは樹木の中でも目立つ。中国の詩人王安石が初夏の緑の樹林に咲く紅いざくろの花を「万緑叢中紅一点」と詩に詠んだ。これが「紅一点」の語源となっている。

ざくろはペルシヤ原産で、多くの古代神話にも登場する歴史ある果物だ。ペルシヤからエジプト、ギリシヤへと伝わり「カルタゴのりんご」と呼ばれていた。その名の由来は原産地にある「ザグロス山脈」にあるといわれる。シルクロードを経て、日本に渡来したのは平安時代。フルーツとしてでなく、庭木、盆栽として観賞用に栽培されることが多かった。江戸時代の園芸書にも登場する。

ざくろの実の旬は九月から十一月で、日本では庭木とすることが多く市場に出ることはあまりない。海外のホテルでは朝食にできることもあったが。そのジューズはセレブが愛飲するスーパーフードとして一時期、ブームになった。種のオイルは栄養が豊富で薬局でも入手できる。塩分を排泄し高血圧予防になるそうだ。強力な抗酸化作用を持つ。漢方薬にも使われている。また、女性の美、健康の味方としても人気がある。かつて私も試したことがあるが、目に見える期待した効果もなく、高価なもので続かなかった。